



ロボカップ2017世界大会



■愛知の発明の日記念講演会

8月1日の「愛知の発明の日」を前に、豊田佐吉翁生誕150周年を記念しトヨタ自動車の豊田彰一郎名誉会長をお招きし「ものづくり、ひとづくり」について特別講演を行いました。1日は佐吉翁が1898(明治31)年に日本初の動力織機の特許を取得した日で愛知県はロボカップと同時開催の世界青少年発明工夫展2017の併催行事として記念講演を実施、サテライト会場と合わせて570人が聴講しました。



「障子を開けてみよ。外は広いぞ」

『何かお国のためになることをしなければ男として生まれた甲斐がない』と考へ織機(1924年、57歳の時に当時世界一と評されたG型自動織機を発明)に一生をささげた**祖父の佐吉翁**、安くて性能が良くしかも使い勝手がよく多くの大衆に受け入れられる『日本人の頭と腕による国産乗用車の実現』を目指した**父の喜一郎氏**、『とにかくやってみよ』や『一日3回油で汚れた手を洗わないものは技術者とは言えない』など脈々と受継がれている**実地第一、現地現物・現場主義**の鉄則など意義深いお話で予定の30分を大きく超える講演でした。

また、自動車産業についてはIoTやAI等の熾烈な開発競争の中で車自体も電動化や自動運転などに向けた流れが加速する激動期を生き抜く『研究と創造』の力が問われていると『覚悟』の大切さも説かれました。交通安全についても触れられたほか、日本から海外へ留学する学生が極端に減少している現状を捉え社会全体が内向きになったことに危機感を感じるとし、佐吉翁の**「障子を開けてみよ。外は広いぞ」**を紹介し、「日本の次代を担う若者には世界に目を向けて大きな夢を描き自立した人間として自主的に考え、主体的に行動していくことが求められている。そして、向上心に燃えた若い人たちが元気に生き生きと楽しく働き活躍する仕組みを構築していくことが未来へつながる」と結ばれました。(参考：中部経済新聞、中日新聞、文責鈴木木純)



■ロボカップ2017世界大会&世界青少年発明工夫展2017

人工知能(AI)で動くロボットがサッカーなどを繰り広げるロボカップ2017名古屋世界大会が7月末に第1回大会以来20年ぶりに愛知で開催され、42カ国・地域から大学など393チーム、2500人が参加し競技が行われました。(愛知県はロボット製造業の製造品出荷額等、事業所数、従業者数とも全国1位)



発明工夫展のブースは熱心に意見交換 転んでも起き上がるヒューマノイド:目標はWC優勝?



また、モノづくりの愛知を支える少年少女発明クラブを中心にした世界青少年発明工夫展2017には世界15カ国・地域の少年少女が発明品などを展示、交流しました。



藤井四段?ロボットと将棋対局



豊田合成のカイゼン紹介ブース

STEP 21 県政 REPORT





愛知の人口の自然増(出生数－死亡数)を支えているのは外国人で、日本人は減少に転じています。

重点事業等調査研究会

例年行われる民進党県議団の重点事業等調査研究会が8月1日から4日間にわたり各部局ごとに開催されました。ヒアリング項目(抜粋)は以下の通りです。

●財政運営状況等

7月25日に決定した地方財政措置は、国は県の算定より法人二税収入を大きく見込んだため、普通交付税は111億円増となったものの臨時財政対策債は429億円の減となり合計318億円の減、決定額は1,682億円。また、消費税率引き上げ時期の延期に伴い外形標準課税拡大(法人事業税所得割4.3%→0.7%に縮小)が31年9月まで継続。

●人口をめぐる動向

日本の人口は2008年をピークに減少する中、本県総人口は増加を続け2016年6月に初めて750万人を突破、自然増はプラスを維持しているが年々減少し2016年は1,752人、社会増は22,811人。同年の合計特殊出生率は1.56(全国1.44)

●平成30年インターハイ開催準備状況

「翔べ誰よりも高く東海空へ」のスローガンのもと来年7月26日～8月20日に東海ブロック(愛知、岐阜、三重、静岡)で開催される全国高等学校総合体育大会東海総体では、30種目中6競技(水泳：名古屋市 バスケットボール(男子)：一宮市等)が本県で開催

●用地造成事業の進捗状況(稲沢三宅(2期)地区)

平和町地内の1期に続き北側の9.3ha(工業用地6.8ha)を本年2月に稲沢市との開発基本協定書を締結し開発、今年度後半に整地工事着手、平成31年度末工事完了予定

●子どもの貧困対策について

昨年12月に実施した愛知子ども調査による子どもの貧困率は**5.9%**(最新の全国調査は13.9%)、**ひとり親家庭等実態調査では65.5%**。詳細な分析では、①圏域別子どもの貧困率は極端な差はない、②保護者の所得が低いほど「わかる」と答える子どもの割合や大学への進学希望の割合が低い、③保護者の所得が低いほど「ひとりで食べる」などの子どもの割合や地域活動へ参加していないと答える保護者の割合が高いと指摘し、ひとり親家庭などはそれら傾向が更に強まっていることなどの分析結果

●国際観光都市としての機能整備を目指した調査研究について

世界各国・都市においてMICEを核とした国際観光都市を目指し競争激化、日本の観光産業はGDPの約7%、愛知も中部国際空港エリアでの国際競争力の高い魅力ある滞在型観光ゾーンの実現可能性、常滑商工会議所等から要望の統合型リゾート(IR)についても調査研究

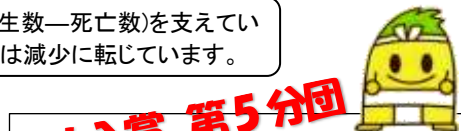
IRに名乗りを上げているのは、大阪府、神奈川県、北海道、和歌山県、長崎県です。



遺族代表服部さんの96歳とは思え

ない力強い『戦没者遺族の歩んできた道のりは苦難の連続だった。わが国の平和と自由を守り世界の恒久平和のために力を尽くし遺志に応える』という言葉に胸を撃たれました。夏祭りで元気を頂きながら **未来へつづくまじづくい** 一生懸命動きます。愛知県議員 **鈴木じゅん**

STEP2



祝!入賞 第5分団



●平成29年8月5日 第62回愛知県消防操法大会が碧南市で開催、稲沢市の代表の千代田地区の第5分団は、4月からの訓練の成果を遺憾無く発揮して勇姿を披露し見事8位入賞を果たしました。来年の愛知県消防操法大会は稲沢市(祖父江の森)で開催予定です。



●平成29年8月10日 愛知県木曾川改修工事期成同盟会総会が開催さ、顧問を務める県議会議員は総勢20名中9名出席。国交省中部地整木曾川上流河川事務所堀所長から稲沢市の拾町野地区改修の事業紹介などもありました。



●平成29年8月15日 愛知県戦没者追悼式が厳粛な中挙行されました。全国では310万人の方が、愛知県では12万6千人の方が戦火に倒られました。ご遺族の皆様と献花し、御霊の安寧と平和への誓いを新たにしました。

- 26日稲沢夏まつり
- 27日稲沢市総合防災訓練
- 9月16日スポーツレクリエーション大会
- 18日長寿祈願祭・敬老式

イベントなど